

2017年度 経済学部ハイド賞

懸賞論文募集

経済学部では、1921年から1922年にかけて本塾で教鞭をとられたカナダ人教授 故ダンカン・クラーク・ハイド氏が、経済学部 に託された遺志を記念し、1988年度より学生諸君の学問研鑽を奨励するために「経済学部ハイド賞」を設け、懸賞論文を募集しています。今年度の募集要項は以下のとおりです。ふるってご応募下さい。

記

テーマ：「内向き」と「外向き」の2つの志向

この1年ほどの間に注目を集めた、英国の欧州連合離脱決定や、自国利益最優先を掲げる米国大統領の誕生は、近年の世界各国の「内向き」志向の典型といえる。一方で、冷戦終結後に一層進んだグローバリゼーションは、家計から国家にいたるまで、世界のあらゆるレベルの組織に「外向き」志向をもたらした。この2つの志向がぶつかる中で、外国人労働者や移民の受け入れの是非、関税のあり方、国境をめぐる姿勢だけをとりましても、国内での人々の間の対立や、国々との対立が生じてきている。しかし、これは現在に限ったことではなく、どの時代どの国においても、「外向き」志向の個人や組織と「内向き」志向の個人や組織が併存し、対立もしてきた。われわれは、この2つの志向の間を揺れ動く経済・政治・社会に直面しながら、家庭人としてそして社会人として、これからも生きて行かなければならない。

そこで、「内向き」と「外向き」、2つの志向を切り口に、具体的な団体・地域・企業・政府・経済圏などを対象としてとりあげ、歴史・現状・将来のいずれかに関して、自由に考察し、学術的な論文としてまとめなさい。なお、対象の種類・数、接近法には一切制約を設けない。

1. 使用言語：日本語・英語のいずれか

2. 用字・字数（枚数）および提出部数

日本語の場合：ワープロでA4判用紙に横書き、10,000～16,000字 要旨(400～800字)を添付

英語の場合：ワープロでA4判用紙に横書き、3,000～5,000語 要旨(200～300語)を添付

提出部数：6部(コピー可)

なお、日本語・英語とも上記の字数・枚数に図表及び参考文献表は含まれません。

3. 応募資格：経済学部・学部学生 単独でも複数者による共同論文でも可。

4. 締め切り：2017年12月1日（金）16:45 締め切りを過ぎての提出は一切認めません。

5. 提出先：三田・日吉 学生部 経済学部係

6. 賞：・特賞（賞金10万円）・優秀賞（賞金5万円）・努力賞（賞金2万円）合わせて5編程度

なお、各受賞論文については、経済学部ホームページおよび学内掲示板に、受賞者氏名ならびに論文題名を掲載します。

7. 発表：2018年1月下旬の予定

8. 過去の受賞論文の閲覧について

前年度受賞論文を、<http://www.econ.keio.ac.jp/>に掲示します（塾内LANでのみ閲覧可）。

9. その他

論文執筆にあたっては、学術論文の作成に関する書物を読みなさい。また以下のサイトの内容を熟読しなさい。

<http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/ronbun/books.html>、<http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/education/culture/academic.php>

応募論文はオリジナルであること、また他の懸賞論文や雑誌等に重複して応募・投稿していないものであることを条件とします。引用に当たっては出典を明記することにも留意して下さい。

応募論文は返却しません。受賞論文の著作権は経済学部 に帰属します。